

第73次 印旛地区教育研究集会
技術・家庭科部会（技術分野）

補助資料

令和6年8月22日（木）
第3部会技術・家庭科研究部
印西市立木刈中学校 鈴木達也

補助資料一覧

- 【資料1】 ……学校における合理的配慮の提供に係る申出（意思の表明）
について（印西市版）
- 【資料2】 ……研修・学習について（印西市立木刈中学校）
- 【資料3】 ……学びのUD化を進めよう！（熊本県立教育センター）
- 【資料4】 ……学びの困難さに対する指導の手立て集・家庭／技術・家庭
（千葉県教育委員会）
- 【資料5】 ……技術・家庭科（技術分野）学習指導案（印西市立木刈中学校）

【資料Ⅰ】

【児童生徒数配付】

令和5年4月〇〇日

保護者 様

印西市立〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇

学校における合理的配慮の提供に係る申出（意思の表明）について

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の施行により、公的機関では、障害を理由とする不当な差別的取扱いが禁止されるとともに、合理的配慮の提供が義務となっております。

つきましては、別紙「（保護者資料）合理的配慮の提供について」を参照の上、学校に合理的配慮の提供を求める場合は、<キリトリ>以下の「学校における合理的配慮の提供に係る具体的な内容の申出」に記入し、学校（学級担任）へ提出してください。

なお、申出いただいた内容については、学校教育活動において児童に必要なか、実施可能か、過度の負担ではないか等について校内で十分検討した上で、本人・保護者の同意を得て決定するとともに、個別の教育支援計画に明記し、関係機関との連携及び引継ぎに活用いたします。この申出に関しては、毎年提出していただきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <キリトリ> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

学校における合理的配慮の提供に係る具体的な内容の申出

以下のとおり、学校による合理的配慮の提供内容について申出いたします。

年 組	児童生徒氏名	保護者氏名	印
具 体 的 な 申 出 内 容			

〇月 〇〇日（〇）までに、担任へ提出をお願いします。

1 障害者差別解消法とは

平成25年6月19日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が制定されました。これにより、本法が施行される平成28年4月1日以降、地方公共団体（公立学校を含む）においては、障害者に対して、障害を理由とする不当な差別的取扱いが禁止されるとともに、合理的配慮の提供が法的義務となります。

2 合理的配慮とは

「合理的配慮」とは、障害のある子どもが他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、

- ①学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うこと
- ②障害のある子ども一人一人の状況に応じて、個別に必要とされるもの
- ③体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものとされています。

3 学校における合理的配慮例

(参考)学校における合理的配慮の例

(文科省資料一部改変)

視覚障害(弱視)のAさん

【状態】矯正視力が0.1で、明るすぎるとまぶしさを感じる。黒板に近づけば文字は読める。

- 廊下側の前方の座席
- 教室の照度調整のためにカーテンを活用
- 弱視レンズの活用

肢体不自由のBさん

【状態】両足にまひあり、車いす使用。エレベーターの設置が困難。

- 教室を1階に配置
- 車いすの目線に合わせた掲示物等の配置
- 車いすで廊下を安全に移動するための段差の解消



学習障害(LD)のCさん

【状態】書くことが苦手で、特にノートテイクが難しい。

- 板書計画を印刷して配布
- デジタルカメラ等※による板書撮影
- ICレコーダー等※による授業中の教員の説明等の録音

(※データの管理方法等について留意)



聴覚障害(難聴)のDさん

【状態】右耳は重度難聴。左耳は軽度難聴。

- 教室前方・右手側の座席配置(左耳の聴力を生かす)
- FM補聴器の利用
- 口形をハッキリさせた形での会話(座席をコの字型にし、他の児童の口元を見やすくする等)



病弱のEさん

【状態】病気のため、他の子どもと同じように運動することができない。

- 体育等の実技において、実施可能な課題を提供

知的障害のFさん

【状態】知的障害があり、短期的な記憶が困難。

- 話し言葉による要点を簡潔な文字にして標記することにより、記憶を補助する。



4 合理的配慮提供までの流れ

① 申出

①障害者差別解消法においては、合理的配慮の提供について、本人や保護者からの申出（意思の表明）が前提となっています。学校から家庭へ連絡する場合もあります。

② 検討

②「均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」については、一律の基準はなく、学校の設置者及び学校が、体制面・財政面等を勘案しながら、代替案を含めて、個別に検討します。

③合意形成

③合理的配慮の決定については、本人・保護者へ情報提供を図りつつ、可能な限り合意形成を図った上で、決定します。

④個別の教育支援計画への明記

④決定された合理的配慮については、個別の教育支援計画に明記し、個別の指導計画にも活用していきます。
また、進級進学時においては、学校間等の情報の引継ぎを保護者の同意を得つつ丁寧に行い、途切れることのない支援を提供します。

⑤評価
・修正

⑤十分な教育を受けるために提供できているかという観点から、校内委員会等を活用しつつ定期的に評価し、必要に応じて見直し、修正していきます。

4月② 研修・学習

企画会議 4月 15日

職員会議 4月 22日

【学校教育目標】 心身ともにたくましく 自ら学び共に生きる生徒の育成 ～笑顔 感動 はつらつ木刈～

【研究主題】 よりよく生きる力を高めるための学びのつながりを意識した授業づくり

～自ら学び、共に生きるための力を育む～

【今年度の取り組み】

- ・ 学びのつながりを意識した授業づくり
- 「単元を貫く問い」を中心とした「学習課題」の研究
- ・ ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践
- ・ 生徒と共に学び、生徒の伴走者やファシリテーターとしての授業実践

【4、5月の研修・学習目標】

生徒目標	教師目標
(1) 授業の約束の確認	(A) 授業の約束の統一化
(2) 家庭学習の習慣化	(B) 年間指導計画作成
	(C) 教室環境の整備

<具体的な取り組み>

(1) 授業の約束について

- ① 2分前着席・・・授業準備が整った状態
- ② あいさつ・・・「起立→気をつけ→お願いします→着席」
- ③ 持ち物の確認（記名の徹底）← 教科書、ノート、ワーク類すべてに記名する。貸し借りしない。

(2) 家庭学習の習慣化

- ① 各教科で家庭学習の仕方も伝える。（授業がそのまま家庭学習につながるとよい）
- ② 小テスト等の有効活用

(A) 教師サイドの授業の約束について

- ① 時限出席をとる。
 - ・ 成績をつけるときに確認するため。（1回でも出席していたら、評価する）
 - ・ 欠席した時間のフォロー
- ② 「学習課題」「Today's goal」は黄色の枠で囲う。定規を使用して囲う。
 - ※ 1m定規が教室になかったら、教えてください。
 - 「この時間の流れ」・・・1時間の授業の流れを導入で生徒と一緒に確認するためのもの。
- ③ 「まとめ」は、文章表現する時間を確保する。自分の言葉で書くことを促す。

④教室の前面黒板にプリントを貼ったり、連絡事項を書いたりしない。

※背面黒板や教室のドアなどを利用する

※学習委員会のホワイトボードも背面黒板または前面の壁等に置く。

⑤掲示するもの（「学習課題」など）は、教卓の横に貼る。

⑥チョークの色は、白、黄色、青をベースに。

「一般教員 →2024 →15 研修 →⑭その他 →配色のバリアフリー」参照（以下抜粋）

□ だれもが心地のよい配色を目指す

色についてのバリアフリー化を達成するとき配慮すべき項目はたくさんありますが、大きく以下の3つを意識しておきましょう。

① 赤と緑は見えづらいので、青やオレンジを使う

② 色に頼らない、色数を増やさない

③ コントラストを強くしすぎない

バリアフリーに配慮しない場合でさえ色の組み合わせには頭を悩ませてきたのに、さらに検討事項が加わったと感じてしまうかもしれません。しかし、無限とも言える色の組み合わせを考えなければならぬ状況よりも、制約により色を選ぶ基準ができることで選択肢が限られることは、悪いことばかりではないはずです。なにより、配色について配慮した資料を作成することは、より多くの人にとって心地よい資料を作ることに他なりません。赤色での強調、必要以上に色を見分けさせる資料、目がチカチカするような配色とはおさらばしましょう。

(C) 教室環境整備について

・前面の掲示物は生徒が黒板に集中できるよう、最低限のものにしてください。

※特別教室も同様です。

・各学年の特活担当の先生を中心に、必要な学級掲示物が整っているか確認してください。

5月 研修・学習

企画会議 5月 7日

職員会議 5月13日

【学校教育目標】 心身ともにたくましく 自ら学び共に生きる生徒の育成 ～笑顔 感動 はつらつ木刈～

【研究主題】 よりよく生きる力を高めるための学びのつながりを意識した授業づくり

～自ら学び、共に生きるための力を育む～

【今年度の取り組み】

- ・学びのつながりを意識した授業づくり
- 「単元を貫く問い」を中心とした「学習課題」の研究
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践
- ・生徒と共に学び、生徒の伴走者やファシリテーターとしての授業実践

【6月の研修・学習目標】

☆総合や道徳、教科の授業でのICTの積極的な利用、引き続きやっていきましょう！やってみたいことやわからないことは毎週金曜日にいらっしゃるICT支援員さんに！（支援依頼票もあります）

生徒目標	教師目標
(1) 定期テストに向けて学習を充実させる	(A) 定期テスト問題のユニバーサルデザイン化
(2) 定期テストの受け方の確認	(B) 成績処理の確認 (定期テスト廃止に対応できる成績処理)

<具体的な取り組み>

(1) 定期テストに向けて学習を充実させる

①家庭学習の定着に向けて、学級や教科で取り組めることをしてみる。(千葉県のHPより)

「家庭学習について考えよう」

「ちばのやる気学習ガイド」



②『学習課題』は問題形式。毎時間書く。黄色で困る。定規を使って困る。

③授業内で、自分の言葉でまとめる時間を確保する。

④学習委員会による予想問題作り、『定期テストの受け方』掲示物の作成

データ「一般教員 →2024 →07 学習・成績 →05 定期テスト →R6 定期テストの受け方(掲示用)」

⑤提出物は確実に提出させる。教科担の声かけで足りない時は、担任や学年で協力。

(2) 定期テストの受け方→「定期テストの受け方(共通理解事項)」のフォルダをお開きください。

※公立高校入試の受け方を基準としています。(直定規の利用は不可。机の中と横は空。など)

※学年または学級で必ず説明し、学級差ゼロ&不正行為ゼロ！ ※生徒と生徒の席の間隔の確保。

※教室のロッカーの上が乱雑にならないように、自分の荷物はずべて自分のロッカーに入れる。

(提出物の回収のみ、ロッカーの上を使ってよい)

(A) 定期テスト問題のユニバーサルデザイン化

①誰が見ても見やすい、読みやすいテスト問題を作成する。

- ・フォントの工夫。(UD デジタル教科書体 N-R、メイリオ、HG 丸ゴシック M-PRO などに対応できる教科はそれらを利用する。教科の特性を考えながらできるだけ見やすく正確なフォントを選ぶようにする。)
- ・文字間、文字の大きさの工夫 (10.5 以下は読みにくい)

②テスト問題の指示方法について

- ・とくに 1 年生は、問題用紙と解答用紙が別々のテストに不慣れなことが考えられます。解答は解答用紙に記入することなどの記載も必要だと思います。

③ふりがなつきのテスト問題について

- ・ワード等のふりがな機能を活用して、作成してください。
(あすなる学級のテスト問題には必ず全てにふりがなをつける。)

(B) 成績処理の確認

- ・教務から提案されている成績処理の方法を確認してください。
- ・来年度の定期テスト廃止に向けて、各教科、評価材料が一致しているか、評価の付け方にズレがないかなど、確実に確認してください。

学びのUD化が学校を変える！

学校あげて

学びのUD化を進めよう！

熊本県立教育センター 人権教育推進プロジェクトチーム

「UD」とは？

「UD（ユニバーサルデザイン）」とは、製品・建物・環境を、あらゆる人が利用できるようにはじめから考えてデザインするという概念で、障がい・年齢・性別・言語等、人が持つそれぞれの違いを超えて、すべての人が暮らしやすくなることを前提としています。

「学びのUD化」とは

すべての児童生徒が安心して学べる教育環境を整備することです。

「学びのUD化」
はなぜ必要？

子どもたちの思いは

思いに「ずれ」はありませんか？

教師の思いは

話し合い？
何をどうしたらいいか
分からないよ……

話し合いをしてほしいんだけど
騒がしいなあ。

去年と同じように、
プリントは一番前の席の
人が、後ろのみんなに
配りに行くんだよね。

プリントは前から後ろにま
わしていくのが当たり前だ
と思うけど、なぜ立つの？

こんなこと言ったら
みんなに認めてもらえ
ないかも？

どうして黙ったままな
のかなあ？

「児童生徒が安心して学べる教育環境」とは、安心できる人間関係や環境の中で、分かりやすい授業が展開されているということです。この「教育環境」を整備することにより、子どもたちは基礎的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことができます。

「学びのUD化」を進めることは、確かな学力、豊かな心など「生きる力」をはじめ、人権を尊重する態度などをはぐくむとともに、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えることにつながります。

第2期くまもと「夢への架け橋」教育プランには、次のように示されています。

- すべての児童生徒が理解しやすいユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の改善
- 障がいのある人もない人も共に学ぶことのできる教育環境づくり

「学びのUD化」を進める ポイントは？

学びのUD化は、次の3つの視点がポイントです。
それぞれの学校での実践を踏まえながら進めてみましょう。

① 環境づくり

言語環境・生活環境を整えましょう

教職員全員の共通理解のもと「学びのUD化」を進めることで、児童生徒は学年・学級が変わっても、とまどいが軽減され、安心して過ごすことができます。

例：意欲や成長を促す言葉かけ、指示の伝え方、
学校生活を送るうえでのルールづくり・・・等

② 人間関係づくり

支持的風土づくりに努めましょう

1日の大半を過ごす学校は、児童生徒の生活の中心となる場所です。安心して生活できるよう、互いのよさや違いを認め合える温かい人間関係づくりが必要です。

例：共感的な人間関係づくり
・・・等

③ 授業づくり

「分かる」授業づくりを目指しましょう

特別の支援を必要とする児童生徒の特性等を踏まえた授業づくりを意識することは、すべての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりにつながります。

例：授業の流れ・授業形態の共通化、
個別の指導、板書の工夫、
教材・教具の工夫、
座席の配置、・・・等

進め方は？

教職員全員でUD化の必要性を共有

学校全体で取り組もうという意識を高めましょう

各教師の「学びのUD化」
実践の洗い出し

各教師のこれまでの取組を出し合いましょう
みんなでできる取組として修正しましょう

ワークショップ

- ・上記3つの視点での洗い出し
- ・個々のすれを教師の協働で修正

実施計画の作成

教職員全員のこれからの取組として計画
※目標の明確化と具体的な行動計画
そして実践！

付加価値

- ・外部講師(OFF-JT)等による新たな学び
- ・PDCAのサイクルでスパイラルアップ

チェックと修正をしながらスパイラルアップ
もちろん、外部からの情報も取り込みながら・・・

学校独自の「学びのUD化」実現

★「学校マネジメント推進」リーフレット
★「OJT推進」リーフレット
も併せてご覧ください

「チェック」「修正」って、いつ？ どうやる???

- 月ごと・学期ごとを基準として、教職員全員が望ましいが、学年や学部を最小単位にして。
- 目標を明確にしたチェックシートやアンケートの活用など、できるだけ客観的な評価で。

注意！

目標は「学びのUD化」ではありません。
「生きる力」の育成です。

学びのUD化取組の視点(例)

① 環境づくり

意欲や成長を促す言葉かけ

- 長所やできていることを認め、ほめ、はげます言葉かけをしている。
- 望ましい行動を子ども自身に意識付けられるような言葉かけをしている。
- 行動の背景や理由を子どもに聞いたり、教師自身で考えたり、理解したりした上で指示や言葉かけをしている。

指示の伝え方

- 簡潔に分かりやすく、ゆっくり、はっきり短い言葉で指示したり話したりしている。
(「一つめは～です」「二つめは～です」等)
- 一つの指示に対して一つの行動ができるよう指示している。(聞くとき、書くときを明確にする)
- 曖昧な言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしている。
- 複数の指示をするときは、視覚的にも分かるように指示している。
- 否定、命令、禁止の言葉ではなく、肯定的で次の行動につながる言葉かけをしている。
(「～しない」「～しなさい」より「～しよう」等)

ルール作り

- 給食や掃除のきまり、学校生活や授業において守るべきルール等を明確に示している。
- 整理整頓の仕方を決めて指導している。

掲示

- 教室前面は必要なもののみ掲示している。
- 1日や1週間の予定を見やすく掲示している。
- 予定の変更は早めに伝え、視覚的に分かりやすく示している。



② 人間関係づくり

共感的な人間関係づくり

- 一人一人が活躍したり、認められたりする場をつくっている。
- 一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気をつくるようにしている。
- 教師自身が、特別の支援を必要とする子どもに対するかかわり方のモデルを示している。

③ 授業づくり

授業の流れ

- チャイムと共に始まり、チャイムと共に終わる授業を心がけている。
- 単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにしている。
- 導入では、興味・意欲・関心を高め、「学んでみたい」と思えるような工夫をしている。
- 展開では子どもの実態に応じて自力解決ができるような手だてや教材・教具の準備をし、分かりやすく提示している。
- まとめでは「分かった」「できた」という満足感・達成感を実感できるような活動を工夫している。

授業の形態

- ねらいに応じて様々な学習形態を工夫している。(ペア、グループ、一斉など)
- 集中力に配慮した授業構成や学習活動の工夫をしている。
- 学び合いが主体的にできるように、その方法や役割分担等を明確に示している。

個別の指導

- 全体指示では伝わりにくい子どもには、個別に指示をしている。
- 学習に使う準備物を忘れがち子どもへの配慮をしている。(明確な指示や指導)
- 書くことが苦手な子どもへの配慮をしている。(時間の確保、書く場所の限定等)
- 机間指導で、内容理解を確認したり、個に応じた指導や言葉かけをしたりしている。



板書の工夫

- 授業の流れや内容が分かるよう、板書の構成を工夫している。
- チョークの色や字の大きさなど子どもの「見やすさ」という視点に立って板書をしている。
- 大切な点やポイントが分かるような板書をしている。(ライン、枠囲み、矢印、記号等)

教材・教具等の工夫

- ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導している。(モデルの提示等)
- 提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具を工夫している。
(具体物、写真、絵、動画、ICT活用など)
- 子どもの発達段階や学び方に合わせた教材・教具の準備や工夫をして、子どもが選択できるようにしている。(プリントの種類(基礎・応用等)や大きさ、読みやすさ・書きやすさへの配慮、課題の量、道具・用具等)

座席の配置

- 子どもの実態に合わせた座席の位置にしている。

★「授業改革推進」リーフレット
★「教育の情報化推進」リーフレット
も併せてご覧ください

教師側の目線だけではなく、**子どもたちの目線で見ることがポイント!**
ここに示す以外の具体的な手だても考えてみましょう。

児童生徒の特性に応じた学習上の支援のポイント

特性	特性の具体的状況	学級全体での対応例
聞く	聞き間違いが多かったり、指示の理解が難しかったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・指示や聞いたことを復唱してみる。 ・分からなかった時のルールを決める。 ・指示を短く、大切なことは文字や絵で示す。 ・話を聞くと書くと書き分けを分ける。 ・座席の工夫
話す	適切な速さで話すのが難しかったり、内容を分かりやすく話したりするのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・話の途中で適切な言葉を補う。 ・5W1Hカード等の手掛かりを用意する。 ・少人数の安心して話せる場を用意する。 ・うまく話せないときに「お助けサイン」などの学級のルールを決めておく。
読む	音読が難しかったり、読み間違いが多かったりする。文章の要点を読み取ることが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・読む時間を確保する。せかさずさりげないフォローを入れていく。 ・短い文章をたくさん読むようにする。 ・読みを補助する教材・教具や物差しなどの使い方を全体に示しておく。
書く	読みにくい字で書いたり、書き間違いが多かったりする。決まったパターンの文章しか書けない。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くときに言葉にして書くようにする。 ・話を聞くと書くと書くと書き分けを分ける。 ・書く時間を確保する。 ・書く量の調整を図る。板書の必要な箇所の囲みなどを工夫する。 ・ノートを使い方を指導する。
計算・推論	計算が苦手で学年相応の文章題を解いたり、図形を書いたりするのが難しい。先を見通して取り組むことが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を聞いたり読んだりする時間と計算したり考えたりする時間を分ける。 ・視覚的な手掛かりや具体物を使用する。 ・活動の手順を細かく分け明確化する。 ・考え方や立式の仕方が分かるワークシートや習熟度別のワークシートを準備する。
不注意	学習で不注意な間違いが多い。集中力が乏しく最後までやり遂げることが難しい。物事を順序立てて行るのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を短い時間ごとに分けて構成する。 ・導入で注意を引くような指示やゲームなどをする。 ・忘れ物に配慮しておく。 ・机間巡視で必要なアドバイスをする。 ・学習の流れを提示し、今どこを学習しているか確認できるようにする。
多動性	離席が多く、そわそわしている。順番を待つことが難しい。他の子の邪魔をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くだけの時間を減らす。グループ学習など授業の形態を工夫する。 ・学習のルールを明確化する。できているときにしっかり褒める。

学びのUD化チェックリスト

チェック数

環境づくり	No.	意欲や成長を促す言葉かけ	チェック
	1	長所やできていることを認め、ほめ、はげます言葉かけをしている	
	2	望ましい行動を子供自身に意識づけられるような言葉かけをしている	
	3	行動の背景や理由を子供に聞いたり、教師自身で考えたり、理解した上で指示や言葉かけをしている	
	No.	指示の伝え方	チェック
	4	簡潔で分かりやすく、ゆっくり、はっきり短い言葉で指示したり話したりしている（「1つめは～です」「2つめは～です」等）	
	5	一つの指示に対して一つの行動ができるように指示している（聞くとき、書くときを明確にする）	
	6	曖昧な言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしている	
	7	複数の指示をするときは、視覚的にも分かるように指示している	
	8	否定、命令、禁止の言葉ではなく、肯定的で次の行動につながる言葉かけをしている（「～しない」「～しなさい」より「～しよう」等）	
	No.	ルール作り	チェック
	9	給食や掃除のきまり、学校生活や授業において守るべきルール等を明確に示している	
	10	整理整頓の仕方を決めて指導している	
No.	掲示	チェック	
11	教室の前面は必要なもののみ掲示している		
12	1日や1週間の予定を見やすく掲示している		
13	急な予定変更は早めに、視覚的に分かりやすく示している		
人間関係づくり	No.	肯定的な人間関係づくり	チェック
	14	一人一人が活躍したり、認められたりする場をつくっている	
	15	一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気を作るようにしている	
	16	教師自身が、特別な支援が必要な子供に対するかかわり方のモデルを示している	
授業づくり	No.	授業の流れ	チェック
	17	チャイムと共に始まり、チャイムと共に終わる授業を心がけている	
	18	単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにしている	
	19	授業の流れが分かるよう、板書の構成の工夫をしている	
	20	導入では、興味・意欲・関心を高め、「学んでみたい」と思えるような工夫をしている	
	21	展開では子供の実態に応じて自力解決ができるような手立てや教材・教具の準備をし、分かりやすく掲示している	
	22	まとめでは「わかった」「できた」という満足感・達成感を実感できるような活動を工夫している	
	No.	授業の形態	チェック
	23	ねらいに応じて様々な学習形態の工夫をしている	
	24	集中力に配慮した授業構成や学習活動を工夫している	
	25	学び合いが主体的にできるように、その方法や役割分担等を明確に示している	
	No.	個別の指導	チェック
	26	全体指示では伝わりにくい子供には、個別に指示している	
	27	学習に使う準備物を忘れがちな子供への配慮をしている（明確な指示や指導）	
	28	書くことが苦手な子供への配慮をしている（時間の確保、板書の範囲を決める等）	
	29	初め指導で、内容理解を確認したり、個に応じた指導や言葉かけをしたりしている	
	No.	板書の工夫	チェック
	30	授業の流れが分かるよう、板書の構成の工夫をしている	
	31	チョークの色や字の大きさなど、子供の「見やすさ」という視点に立って板書している	
	32	大切な点やポイントが分かるような板書をしている（ライン、枠囲み、矢印、記号等）	
No.	教材・教具等の工夫	チェック	
33	ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導している（モデルの提示等）		
34	提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具の準備や工夫をしている（具体物、写真、絵、動画、ICT活用など）		
35	子供の発達段階や学び方に合わせた教材・教具の準備や工夫をして、子供が選択できるようにしている（プリントの種類【基礎・応用等】や大きさ、読みやすさ・書きやすさへの配慮、課題の量、道具・用具等）		
No.	座席の配置	チェック	
36	子供の実態に合わせた座席の位置にしている		

家庭／技術・家庭

道具を操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
周囲の状況に気をとられやすく 道具を安全に扱うことが難しい	落ち着いて学習に参加し 道具を安全に扱うことができるように

<手立て>

① 道具に印をつける	② ミシン等の速度を調整する
<p>・刃物などの道具を使用する際には、刃体を触らないように、持ち手に印をつけることで、持つ部分を意識することができる。</p>  <p>ポイント! 正しい持ち方を習得することで安全に取り扱う事ができるようになる。</p>	<p>・ミシンの動きに集中できるようにミシンの速度を低速に調整し、針先への意識付けを図る。</p>  <p>ポイント①! 速度を上げることで集中が増す場合もあるので適切な速度に調整する必要がある。</p> <p>ポイント②! 布に視線を向けやすいよう、線の色や太さを変えて示すことも有効である。</p>

聞く・聞き取る

指示を理解する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
言葉での説明や指示だけでは 安全に気を付けることが難しい	説明や指示の意味を理解し なぜ危険なのかをイメージできるように

<手立て>

① 約束事を掲示し、随時確認できるようにする	② 活動内容や手順等を、ICT機器を活用して明示する
<p>・安全面での約束事について、いつでも確認できるように、掲示物を作成する。</p>  <p>ポイント! 活動前に確認することで意識付けすることができる。活動内容によっては、手元で確認することができるようにするとより効果的である。</p>	<p>・活動内容や操作方法、手順について、ICT機器等で視覚的に確認できるようにする。</p>  <p>ポイント! 適切な道具の使用が事故を防ぐということを学習し、危険認知を高めることにつなげていくことができる。</p>

聞く・聞き取る

イメージする・想像する

<困難さ>

言葉や文字説明では活動内容を理解できず
活動のポイントをつかむことが難しい

<指導の工夫の意図>

視覚的情報を活用し
具体的に活動のポイントを確認できるように

<手立て>

写真や動画などを活用し、視覚的に提示する

- ・本人の視点で写真を撮って活動のポイントを示す。



ポイント①!

のこぎりの角度や体の向き、材料の固定方法など具体的なポイントについて、本人の視点で撮影し、示すことで理解が深まる。

ポイント②!

ミシン操作の際の手の位置や、調理実習の道具の使用方法等を本人の視点で示すことで、ポイントを確認することができる。



- ・道具の操作方法を動画や画像で示す。
- ・タブレット端末等を手元に置き動画や静止画で確認しながら活動する。

ポイント!

教師がモデルとなり、適切な操作方法を動画などで示すようにすることで、活動のイメージをつかむことができる。

初めての操作に対する心理的な不安も軽減でき、安心して活動に取り組むことが期待できる。



【資料5】

第1学年4組 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

展開場所
指導者

木工室
鈴木 達也

本校の研究主題

よりよく生きる力を高めるための学びのつながりを意識した授業づくり
～自ら学び、共に生きるための力を育む～

技術・家庭科の努力点

生活に必要な基本的な知識と技能を身につけ、他教科とのつながりを意識して自ら工夫し、生活に生かせる実践力を育成する。

1. 題材名

「木材切断用のあて木を作ろう」 A. 材料と加工の技術

2. 題材について

(1) 題材観

新型コロナウイルス感染の影響が、日本の生活環境に多大なる変化をもたらした。従来の教育も根本的に見直され、ICT機器を活用したオンライン授業やリモート学習が日本各地で今日も行われている。

それに伴い、技術・家庭科教育も「D 情報の技術」の分野の進化が著しく、積極的なICTの活用が求められている。情報教育が推進され、新たな教育技術が進歩するなか、生徒が実体験として「もの」を製作する経験が次第に薄まりつつある。幸いなことに、DIYやキャンプの流行で、自然本来の材料に触れる機会は維持されつつも、「もの」を「つくる」という経験が、Z世代と呼ばれる若者たちを中心に減少してきているのも事実である。現在は、高度に電子機械化された工場の商品が生産され、企業努力の末に安価で販売されている。しかし、ものづくりは最新の電子機器の活用だけで、細かな技術の習得に結びつかない側面もある。原始的ともいえる地道な手作業の繰り返しこそが、人間の作業技量を向上させていると感じる場面が数多く存在するように思える。

「もの」を「つくる」ことに苦手意識を持っている生徒は存在する。苦手だと訴える生徒の多くは、実体験としての経験値が少ないことと、けがをした時のトラウマが原因になっているように感じている。また、生徒の身近にいる大人も、自分自身が材料や工具に触れてつくる経験が、かつてと比べ少なくなっているため、適切なアドバイスをすることが難しい現実があり、加工に使う工具の名前すらわからないケースも見受けられる。ICTを駆使して、パソコンやスマートフォンを活用し、SNSで動画を「見る」経験は豊富にあっても、実際に「つくる」経験が少ないように思えてならない。そのため、「つくる」経験を増やすためにも、作業を行う時間を確保し、原始的ともいえる地道な手作業を繰り返し、生徒自ら進んで工具を安全かつ正確に扱って作品製作ができるようにすることが、将来役立つ財産になると考える。

本題材は、学習指導要領の技術・家庭科編技術分野の目標である「技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」に基づき、「A 材料と加工の技術」の「(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。」に含まれる「ア 材料と加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。」を扱うものである。

本校では研究主題を達成するために、5つの研究テーマを設定した。その中で、技術・家庭科の技術分野においては、「日々の学びと生活をつなげる授業づくり（学校での学びが日々の生活にどのように生かされるのかを実感できる授業の工夫）」が設定された。

技術・家庭科の技術分野は、「A 材料と加工の技術」「B エネルギー変換の技術」「C 生物育成の技術」「D 情報の技術」といった学習を3年間で履修する。学習した内容が、その日のうちに役立つ生活に直結した教科であり、生徒の進路選択にもつながる教科でもあり、それをねらいとしている。ゆえに、今回の研究テーマにも合致する。そこで、今回の題材では、木材を切断する時の補助具である「あて木」を製作することで、今後の技術分野の学習や家庭生活で木材を切断する時の安全性について考えさせ、その上でのこぎりを始めとする工具の正しい名称や扱い方を身に付けさせることを目標とした。

こうした学習指導要領の示すところを踏まえて、小学校の図画工作の学習を基礎とし、より発展的な学習を中学校の技術・家庭科で行うことを考えさせ、様々な課題を解決するために、自ら進んで取り組もうとする力を身につけさせたいと考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

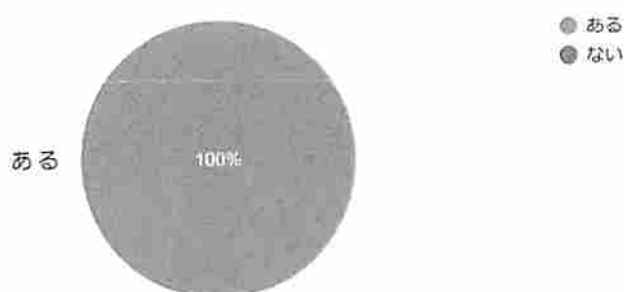
本校のある印西市の総人口は増加しており、平成30年5月に人口10万人を突破した。令和2年度の国税調査では、市の全人口に占める15歳未満の人口割合が16.4%で全国14位、核家族世帯の割合は、72.9%で全国1位と極めて高く、本中学校区の小学校の在籍生徒数も年々増加の傾向にある。その要因として、都心へのアクセスがしやすく、大型商業施設が多く隣接していることがあげられる。また経済的に恵まれた家庭が多く、教育に関する家庭の意識も高い。塾に通っている生徒も多いことから、学力の高い生徒が多い。その反面、学習への意欲が低く、家庭学習も定着していない生徒が見られるようになってきた。また、小学校からの不登校傾向の生徒も増加しており、校内の適応指導も課題となっている。

授業を展開する1年4組は、男子20名、女子15名の合計35名のクラスである。クラスの雰囲気は明るく、行事では活発に活動し体育祭や合唱コンクールでは成果を残すことができた。自分の意見を表現したり、仲間の話を聞いたりすることもできる。その反面、話をまとめるのに時間が必要となる傾向にある。作業においては、足のけがの関係で歩行に配慮が必要な生徒が存在する。椅子に足をのせて材料を固定し、のこぎりで切断する作業は難しいことが予想されるので、万力を活用して材料を固定し切断できるように配慮し、学習を進めていきたい。

10月中旬から始まる学習を開始するにあたり、次の確認アンケートをGoogleフォームで行った。

今まで、木材を切ったことがありますか？

33件の回答

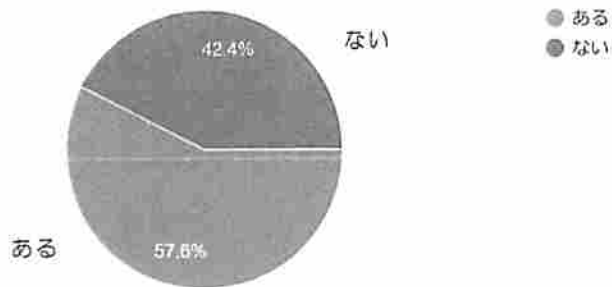


○木材を切ったことがある人に質問します。木材を切る時に、使った工具の名前を書いてください。

- ・のこぎり 16名
- ・いとこのこ 15名
- ・電動のこぎり 1名

今まで、木材を削ったことがありますか？

33件の回答

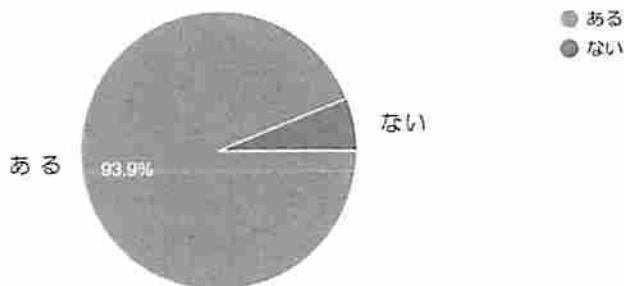


○木材を削ったことがある人に質問します。木材を削る時に、使った工具の名前を書いてください。

- ・やすり 2名
- ・紙やすり 2名
- ・鉛筆削り 1名
- ・彫刻刀 2名
- ・ナイフ 1名
- ・カッター 1名
- ・かんな 1名

今まで、木材を接合（組み立て）したことがありますか？

33件の回答

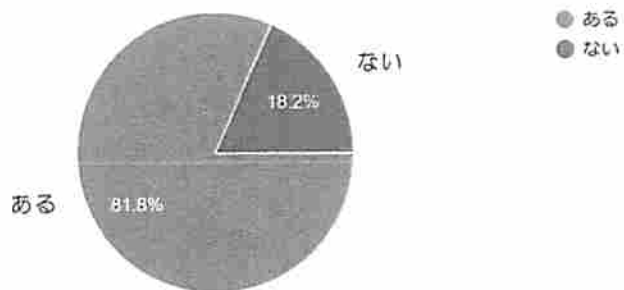


○木材を接合したことがある人に質問します。木材を接合する時に、使った文房具や工具、部品の名前を書いてください。

- ・ボンド&接着剤 15名
- ・くぎ 6名
- ・ネジ 5名
- ・トンカチ 2名
- ・テープ 2名

今まで、木材を磨いたことがありますか？

33件の回答

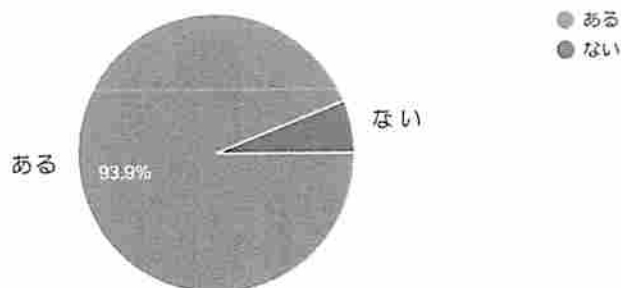


○木材を磨いたことがある人に質問します。木材を磨いた時に使った工具の名前を書いてください。

- ・やすり 5名
- ・紙やすり 3名

今まで、木材を塗装したことがありますか？

33件の回答

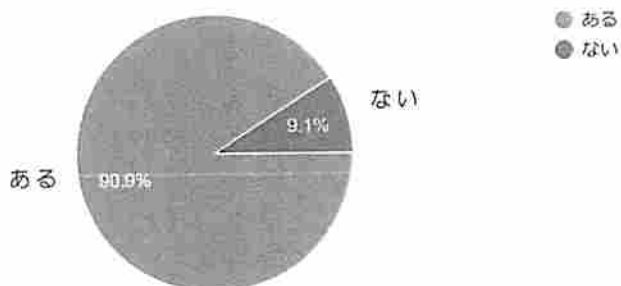


○木材を塗装したことがある人に質問します。木材を塗装する時に使った文房具や工具などの名前を書いてください。

- ・絵の具 7名
- ・ペンキ 2名
- ・ニス 4名
- ・ラッカースプレー 1名

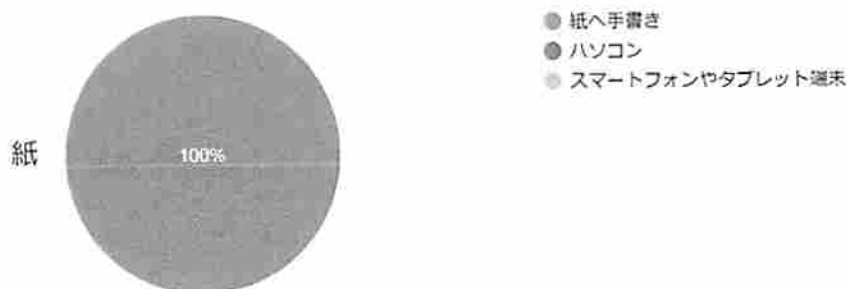
木材を使って作業をするために、計画表や図を書いたことがありますか？

33件の回答



計画表や図を書いた人に質問します。計画表や図はどのように作成しましたか？

31件の回答



○木材を使って作業をしたことがある人に質問します。いつ頃にどんなものを作りましたか？品名を書いてください。複数ある人は、複数書いてください。

- ・小学6年生の時にオルゴール
- ・小学6年生の時に本立て、本置き
- ・小学6年生の時に観覧車もどき
- ・小学6年生の時に、家でペットの鳥のおもちゃ
- ・小学6年生の時の夏休みに、貯金箱

- ・小学5年生の時に、木板を組み合わせた模型
- ・小学5年生の時に、糸鋸を使った作品
- ・小学5年生の時に、ネジを使った置物づくり

- ・小学4年生の時に、動く模型
- ・小学4年生の時に、物入れ
- ・小学4年生の時に、小さな家

- ・製作時の学年は不明でフェンス

○木材を使って作業をしたことがある人に質問します。作業はどこで行いましたか？作業をした場所を書いてください。

- ・図工室
- ・教室
- ・庭

○木材を使って作業をしたことがある人に質問します。その時に感想を簡単に書いてください。

- ・楽しかった10名
- ・難しかった9名
- ・大変だった7名
- ・完成してうれしかった3名
- ・面倒くさい
- ・木の粉がすごかった。服につくととりにくい
- ・のこぎりで、木材を切るのに結構時間がかかった
- ・のこぎりで、指とか切れそうで怖かった

○木材を使って作業をしたことがある人に質問します。作った品物は今どうなっていますか？簡単に書いてください。

- ・飾ってある8名
- ・倉庫においてある6名
- ・捨てた4名
- ・引き出しや押し入れの中で眠っている3名

- ・自分の部屋にある3名
- ・どこかにある2名
- ・使っていない2名
- ・時計置きとして使っている
- ・物入れになっている
- ・いつも使っている

アンケートをまとめると、ほとんどの生徒が木材を加工した経験を持っている。のこぎりと糸鋸の両方を活用して、木材を切断することができると思われる。木材を削る時に、やすりやカッターを使って加工したことが多い。かんなで加工したことがある生徒も存在している。木材を接合する時に、ボンドを使うケースが大半で、くぎやネジで接合する経験ももっている。ただ、その時に使う工具の名称を間違えて覚えていることが残念である。木材を塗装する時、事前に紙やすりで表面加工してから、作業を行っていることがわかった。塗料は、絵の具が使用することが多く、ニスあまり使われておらず、ワックスは使われていないことがわかった。また、ペンキやラッカーを使っている生徒もいたので、どのような使われ方をしたのか確認したい。全員、工程表や製図を使って、作品製作を行っているが、どのようなものを活用したのかは不明である。

履修時期については、小学校4年生以上で、木材を使った作品づくりを行っていることがわかった。小学校学習指導要領図画工作第3指導計画の作成と内容の取扱い2(6)イの文中に、「第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。」とある。またウの文中には、「第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いること。」となっている。学習指導要領に基づき、年間指導計画を作成して、授業実践を進めたことを確認することができた。作業については、図工室で行っていることがほとんどで、休業中は自宅で作業するケースもあった。ものづくりの作業について、ネガティブなイメージをもつ生徒も多いが、作業のやりがい、楽しさや達成感を感じている生徒も多かった。そして、自分の製作した作品を大半の生徒が、保管したり活用したりしていることがわかった。ただ、若干名処分した生徒も存在していた。その理由も今後確認したい。

のこぎりを使った切断について、不安に思っている生徒が一定数いることがわかった。

以上のことから、まずはのこぎりを始めとする工具類の使い方について、小学校からの反復学習を行い、安全で正確な実践力を身につけられるような授業を展開していきたいと考えた。そのため、簡単に製作することが可能な木材切断用の「あて木」を題材として選び、学習を進めていくことにした。

(3) 指導観

本題材を指導するにあたり、小学校時代の学習についてのアンケートを行い、実態を確認することができた。木材を加工する経験は有しているものの、工具の正しい名称や細かな使い方については理解していないことがわかった。中学校学習指導要領技術・家庭科第3指導計画の作成と内容の取扱い1(4)の文中に、「小学校における学習を踏まえるとともに、(中略)系統的・発展的に指導ができるようにすること。」とある。そのため、本格的な材料と加工の技術の学習に入る前に、小学校時代の学習のおさらいも兼ねて、実際に授業で活用する簡単な補助具を製作することにした。作業を通して、正しい工具の名称を理解させ、繰り返し学習を行うことで、安全で正しい加工方法を身につけさせたい。そして、次に扱う題材となる「筆箱づくり」の時に活用したいと考えている。

また技術・家庭科では、言語活動を充実させ、問題解決学習を進めるために、「なぜ」「どうする」という言葉を用いて、工夫したことや考えたことを仲間に伝え合う活動も行っている。まず生徒自らが主体的な学びを行い、一緒に作業する仲間とコミュニケーションをとることで、自分の考えだけでなく、仲間の考えに耳を傾けることで新しい考えに気づき、問題解決につながるという対話的な学びを全員で共有したいと考える。お互いに意見を出し合い、自分では気がつかなかったことに気づくことができるような話し合い活動を可能な限り行いたい。そして、将来的には他教科の学習を含めた深い学びの実現に向けて、取り組んでいきたい。

さらに、学習内容の理解力を向上させ、忘却を防ぐ上でも、ICT機器の活用を必要に応じて行っていきたい。生徒たちは、パソコンをはじめとする情報端末の活用方法について、小学校や中学校他教科で教わり、使えるようになっている。そこで、作業の様子をパソコンのカメラ機能を使って動画で撮影し、その様子をお互いで観察し、意見交換することによって、学習意欲と理解力の向上を図っていきたい。

これらのことを継続的に行うことで、将来課題が発生した時に、自分で解決方法を探し、対応する能力や態度が身につく、よりよい生活を送ることができるようになるのではと考える。

木工室の班編制や座席については、ほとんど作業を行っていないので、男女別の出席番号順で、一班3～4名の班を編制し、しばらく授業を進めていく予定だが、生徒の実態に応じて編成を変更し、生徒の理解力向上や安全な作業につなげていきたい。また、必要に応じて学習支援員も活用して、より安全できめ細やかな学習を進めていきたいと思う。

3. 題材の目標

- ・生活や社会で利用されている材料と加工の技術について、基礎的な知識について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。[知識及び技能]
- ・生活や社会の中から、材料と加工に関する問題を見いだして、課題を設定し、解決する力を身につける。[思考力、判断力、表現力等]
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。[学びに向かう力、人間性等]

4. 内容のまとめりごとの評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び材料と加工の技術と便利な生活との関わりについて理解している。 ・製作に必要な図を確認して安全、適切な製作や検査、点検等ができる技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から材料と加工の技術と収納等に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。 ・よりよい生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し想像実践しようとしている。

5. 指導計画について

(1) 3年間の指導計画

	技術分野	家庭分野
1 学年	ガイダンス 4 時間	ガイダンス 自立と共生 A (1) 2 時間
	A 材料と加工の技術 ・社会の発展と材料と加工の技術 (2) アイ 4 時間	1. 住まいのはたらきとこちよさ B (6) アイ 3 時間
	・生活や社会を支える材料と加工の技術 (1) アイ 4 時間	2. 安全な住まいで安心な暮らし B (6) アイ 4 時間
	・材料と加工の技術による問題の解決 (2) アイ 2 1 時間	3. 生活を豊かにするものの製作 B (5) アイ 1 2 時間
	・社会の発展と材料と加工の技術 (3) アイ 2 時間	B. 衣食住の生活 1. 目的に応じた衣服の選択 B (4) アイ 6 時間
		3. 日常着の手入れと保管 B 4 (4) ア 5 時間
	生活の課題と実践	

		・ 持続可能な衣生活 B (7) C (3) B (4) (7) C (2) 3時間
2 学年	C エネルギー変換の技術 ・ 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 (1) ア 6時間 ・ エネルギー変換の技術による問題の解決 (2) アイ (1) アイ 18時間 ・ 社会の発展とエネルギー変換の技術 (3) アイ 4時間 B 生物育成の技術 ・ 生活や社会を支える生物育成の技術 (1) アイ 3時間 ・ 生物育成の技術による問題の解決 (2) アイ 3時間 ・ 社会の発展と生物育成の技術 (3) アイ 1時間	C. 消費生活と環境 1. 消費生活のしくみ C (1) アイ 1時間 2. 家庭生活における収入と支出 C (1) アイ 1時間 3. いろいろな購入方法 C (1) アイ 0.5時間 4. 購入前に知っておくこと C (1) アイ 0.5時間 5. いろいろな支払い方法 C (1) アイ 1時間 6. 情報を活用した上手な購入 C (1) アイ 1時間 7. なくなる消費者被害 C (1) アイ 0.5時間 8. 消費者を支えるもの C (2) アイ 0.5時間 9. 消費者の権利と責任 C (2) アイ 1時間 10. 消費者行動が社会に与える影響 C (2) アイ 0.5時間 11. 消費者行動が環境に与える影響 0.5時間 12. 世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造 C (2) アイ 1時間 B. 衣食住の生活 1. 中学生に必要な栄養を満たす食事 B (2) アイ 5時間 2. さまざまな食品とその選択 B (3) アイ 4時間 3. 日常食の調理 B (3) アイ 8時間 4. 地域の食文化 生活の課題と実践 B (3) アイ A (4) B (7) 4時間

		5. 献立づくり B (2) アイ	3時間
		6. 持続可能な食生活 B (1) (2) (3) C (2)	2時間
3 学年	D 情報の技術 ・生活や社会を支える情報の技術 (1) アイ	6時間	
	・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツプログラムによる問題の解決 (2) アイ	7時間	
	・計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (3) アイ	3. 5時間	
	・社会の発展と情報の技術 (4) アイ	1時間	
	A. 家族・家庭生活 1. 幼児の生活と家族 A (1) アイ A (2) アイ	5時間	
	2. 生活を豊かにするものの製作 B (5)	2時間	
	3. 幼児とのかかわり A (2) アイ	6時間	
	4. 家庭生活と地域のかかわり A (2) アイ	4時間	
	3年間をふり返って	0. 5時間	

(2) 指導と評価の計画 (4時間扱い)

(本時 1 / 4)

小題材	時間	ねらいと学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料取りと部品加工 (切断)	1 (本時)	○木材を道具を使い切断することができる。 ・のこぎりや固定具を使って木材を切断する。 ・より安全で正確に切断する方法について考える。	・のこぎりを使い材料を切断する方法を理解している。 (行動観察) (撮影動画)		・のこぎりを使い材料を切断するよりよい方法を考えようとしている。 (行動観察) (グループワーク)
材料取りと部品加工 (切断)	1	○木材を道具を使い正確に切断することができる。 ・のこぎりや固定具を正しく使って木材を正確に切断する。	・のこぎりを使い材料を正確に切断する方法を理解している。 (行動観察) (撮影動画)	・のこぎりを使い正確に材料を切断する方法を身につけている (行動観察) (撮影動画)	・のこぎりを使い材料をより正確に切断する方法を考えようとしている。 (行動観察) (グループワーク)
材料取りと部品加工 (鋸削)	1	○切断面を平らに加工することができる。 ・様々な工具を使って木材を加工する。 ・より安全で効率のよい部品加工の方法について考える。	・かんな及びベルトサンダーを使い材料を安全かつ正確に切断する方法を理解している。 (行動観察)	・安全かつ正確に部品加工を行う方法を身につけている。 (行動観察) (撮影動画)	・かんな及びベルトサンダーを使い材料をより安全で正確に加工する方法を考えようとしている。 (行動観察)

			(撮影動画)		(クイズ形式)
材料取り と部品加工 (組立て)	1	○加工した木材を接合することができる ・様々な工具を使って木材を接合する。 ・より安全で効率のよい接合方法について考える。	・きり釘げんのうボンド等を使い材料を安全かつ正確に接合する方法を理解している。 (行動観察) (撮影動画)	・安全で正確に接合ができるような手順を身につけている。 (行動観察) (撮影動画)	・きり釘げんのうボンドを使い材料をより安全で正確にする方法を考えようとしている。 (行動観察) (クイズ形式)

(3) 学習のつながり

前時まで、技術・家庭科の技術分野のガイダンスを行っている。ガイダンスの中で、安全についての学習や、ものづくりに関する見方や考え方の学習を扱っているので、本時の学習で参考にしていきたい。次時には、本時の学習で得た学びを活用して、より安全で正確に木材を切断する実践を全員で行い、その後の部品加工や組立ての学習へつなげていきたい。

また、小学校図画工作の学習と関連付け、先のアンケートを参考にしながら、作業を進めていきたい。

6. 本時の指導

(1) 小題材「のこぎりを使って木材を切断してみよう」

(2) 目標

- ・のこぎりを使い材料を切断する方法を理解している。(知識・技能)
- ・のこぎりを使い材料を切断するよりよい方法を考えようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援	○評価	資料・道具
5	1 前時のガイダンスを振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">●様々なICT機器を使って前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">見いだす</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">学習課題 のこぎりを使って木材を切断してみよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分で取り組む</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容をテレビの画面を見て振り返り、本時の学習内容を確認させる。 ・製作見本を提示する。 ・避難方法について確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ ・クロームブック ・教科書 ・製作見本 ・タイマー
15	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">のこぎりや固定具などの使い方について、様々なICT機器を使い確認をする。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を動画確認させる。 ・安全に作業を進めることができるように、のこぎりの扱いを再確認させる。 ・道具や施設の扱いを大切にするように意識させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ ・クロームブック ・教科書 ・木材料 ・のこぎり

3 学習課題を解決するために役割分担を決める。

●班ごとに、担当する係決めをする。(班長、記録、作業、補助)

4 各班ごとに、木材の切断作業を行う。

●班長→ワークシートで確認
記録→端末で動画撮影
作業→班代表で木材を切断
補助→作業担当の補助

[予想される生徒の反応]

- ・簡単に切断できた!
- ・まっすぐ切断できない…。
- ・切り終わるときに木が欠けた…。

5

広げ深める

5 班ごとに、作業の様子について検討会を行う。

●自分の担当した係の視点から、どのような改善が必要かを話し合いワークシートへ班長が記入する。

[予想される生徒の反応]

- ・まっすぐ切断するにはどうする?
- ・木材を固定するよりよい方法は?
- ・木材の端を割らない方法は?

まとめあげる

25

6 本時のまとめをする。

●検討会で出された意見を、クロームブックのカメラを使い順番に各班長が発表する。

[予想される生徒の反応]

- ・自分たち班の感想と同じ。
- ・そういった考えがあったのか!

●本時の学習で理解したことを各自でグーグルフォームに記入し、まとめる。

●作業で使ったものの片付け、清掃を行う。

- ・3～4人班で、各自の係を決める。
- ・3人班は、班長と記録を兼任させる。
- ・各班で係が決まったら、班長に報告させる。

- ・軍手の活用を意識させる。
- ・机間指導を行う。必要な場合のこぎりの扱い方を支援する
- のこぎり及び固定具を使って、木材を切断する方法を理解する。(知識・技能)【行動観察】【撮影動画】

評価がCの生徒への手立て
動画や教科書等を参考にして、理解できるようにうながす。

- のこぎり及び固定具を使って、より安全で正確に木材を切断する方法を考えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)【行動観察】

評価がCの生徒への手立て
動画や教科書を参考にして、改善点を探すことができるようにうながす。

- のこぎり及び固定具を使って、より安全で正確に木材を切断する方法を考えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)【行動観察】【グーグルフォーム】

評価がCの生徒への手立て
グーグルフォームの操作方法を確認し、答えることができる箇所を返答するようにうながす。

- ・安全を意識して、片付け及び清掃作業を進めさせる。

- ・軍手
- ・ワークシート

- ・ワークシート

- ・大型テレビ
- ・クロームブック
- ・グーグルクラスルーム
- ・グーグルミート
- ・グーグルフォーム

<p>7 次時の学習では、本時の改善点を作業で活用することを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>● グーグルフォームの集計結果を公開し閲覧することで、次時の目標を明確化する。</p> </div> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想と同じ結果! ・少し自分の感想と違う。 ・自分の考えと違うところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の感想を提示し、改善点の視点を共有させる。 ・次時は、本時の授業を参考にして木材の切断作業を進めることを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ ・クロームブック ・グーグルフォーム
--	---	---

(4) 板書計画

・上面

目標 のこぎりを使って、木材を切断してみよう。

この時間の流れ

- ・切断作業の説明 (安全面)
- ①班ごとで係決め
- ②班ごとで木材の切断作業 (撮影・記録)
- ③班ごとで作業の課題の確認
- ④全体で情報の共有
- ⑤清掃と片付け
- ・次の授業に向けて

作業は

時 分まで

係分担

- ・班長→進行と発表
- ・記録→動画撮影
- ・作業→のこぎりで木材を切断
- ・補助→作業者の手伝い
(3人班は班長が兼ねる)

・下面

☆作業の課題を仲間と共有しよう

まとめ

- ①自分の考えを、まとめよう。
- ②自分の考えを、班の仲間に伝えよう。
- ③班長が、班の考えをまとめよう。
- ④クラスルームを使って、班長が全体に発表しよう。
- ・今日の授業の感想を確認しよう。

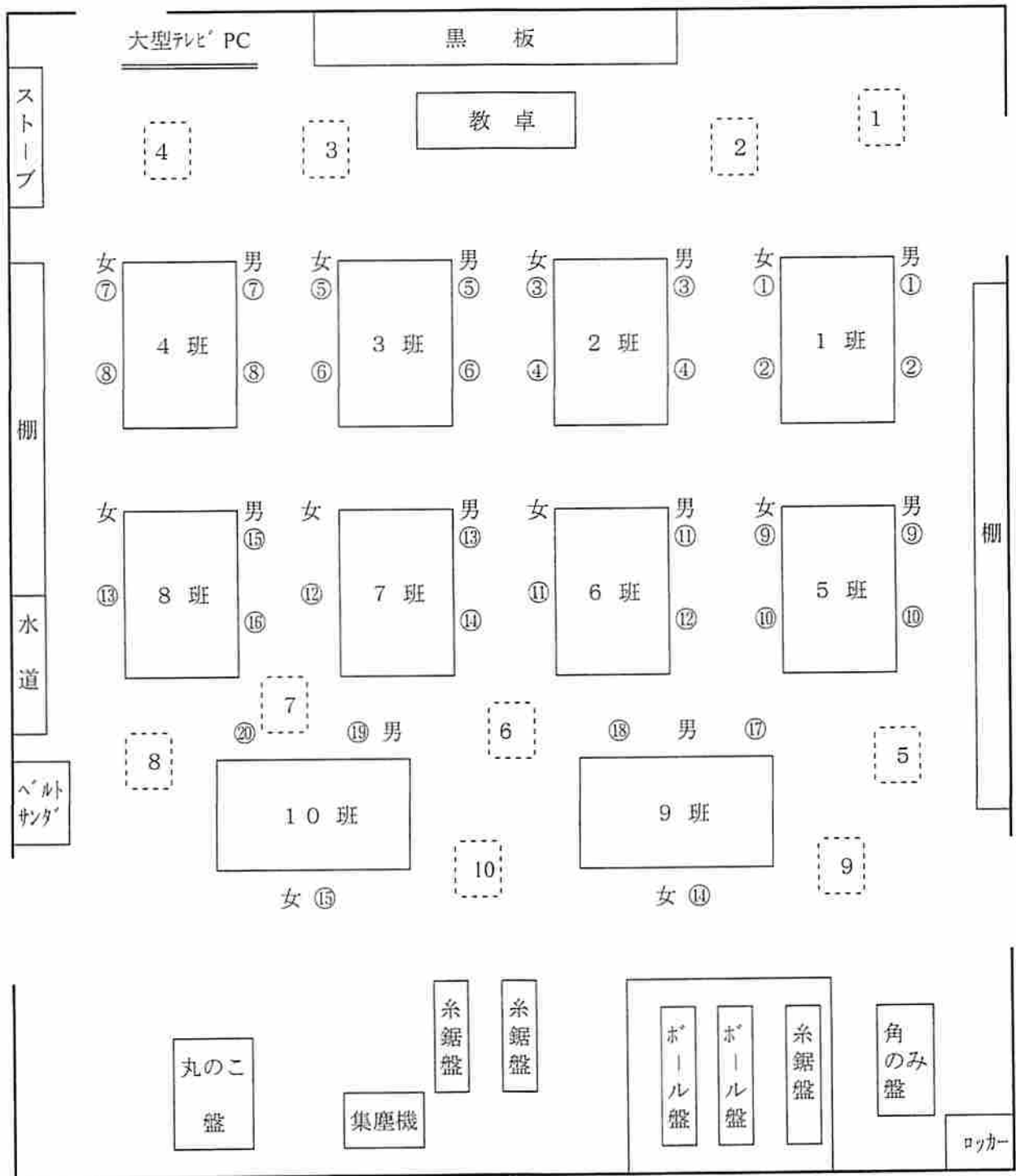
キーワード

「なぜ」

「どうする」

「昔の経験」

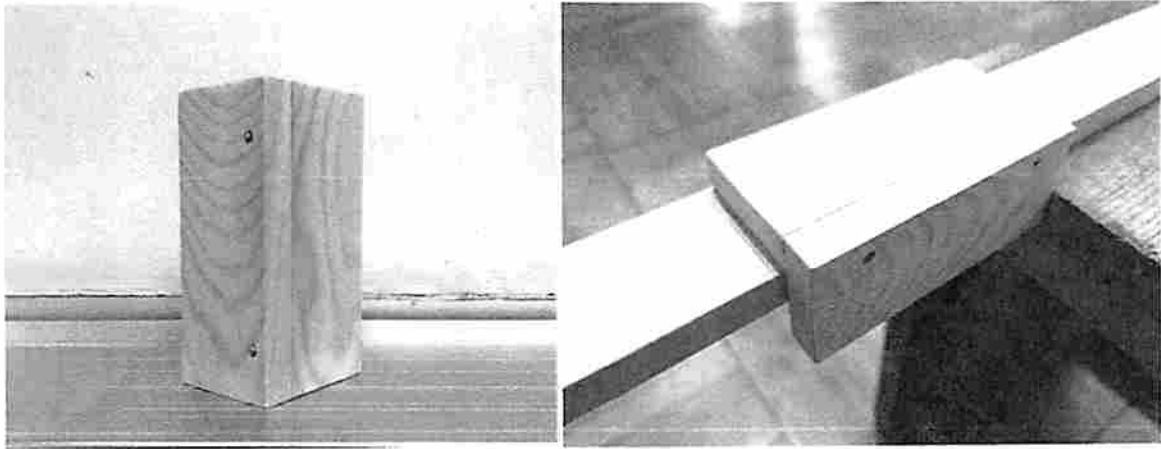
(5) 配置図



※破線の枠は、椅子の設置場所を示し、各班生徒の作業箇所を示す。

(7) 資料

①製作品 (あて木)



②ワークシート

技術・家庭科 学習ワークシート

_____組 _____番 氏名_____

授業の目標は

- ・自分の担当する係は、 _____ 係 です。
- ・係の仕事内容は、 _____ することです。
- ・作業の順番 (クラスルームの動画も参考) はチェック用の枠。できたらしよう。

- ①木材を固定具におく (今回は、「いす」か「万力 (まんりき)」のどちらか)
- ②「あて木」を木材にセットする。
- ③「のこぎり」を安全にもつ。切断に使う刃の確認する。
- ④「のこぎり」で、線の上から、切断していく。
- ⑤10ミリくらい木材を切断したら、「あて木」を取り外す。
- ⑥木材を切り終える。切断した側の木材を取り除く。
- ⑦「のこぎり」を安全に片付ける。
- ⑧ 固定してある側の木材を取る。

○よりよい方法で、木材を切断する方法について考えてみよう。

自分の考え

仲間の考え（おもしろい考え方や新しい考え方など、メモをとろう。）

（ ）班の発表向けにまとめた文を簡単に書こう。

よりよい切断方法について、（ ）班では、次のような考えができました。

木材については、

のこぎりについては、

木材の固定方法については、

その他では、

これで（ ）班の発表を終わります。

③作業振り返りアンケート

授業を終えた感想

今日の授業を振り返り、次の学習に向けたまごのをしましょう。よりよい学習を進めるため、次の問いに答えてください。

自分の係の仕事を行うことができましたか？

できた

できなかった

安全に木材を切断する方法について、自分なりに考えることができましたか？

できた

できなかった

班内の話し合い活動で、自分の考えをさらに深めることができましたか？

できた

できなかった

どのようにすれば、よりよい木材の切断ができると思いましたか？

記述用シート、粗大回答

次回の学習で、取り組んでみたいことがあるは、記入してください。

記述用シート、粗大回答